

世界平和の実現をめざして

東京都公立中学校教諭

1

はじめに

9・11以降、日本の中学生にもテロに対する脅威が身近に感じられるようになってきている。中学3年生の中には、連日の報道により、イラクやアフガニスタンでのテロ活動、およびそれに対する日本の関わり方について多少の知識を持ち合わせているものも何人かはいる。とはいえ一方で、報道にふれたことはあるものの、全く興味も関心も持ち合わせておらず、断片的な知識すらもあやふやだという生徒も多い。

このような現状把握を前提に、大まかな学習目標を段階的に示すと

1. 国際紛争の現状を大まかに把握する（興味・関心および知識・理解）
2. 世界平和の実現をめざして、日本人の立場として何をすべきか、考え発表する（興味・関心、思考・判断および技能・表現）となる。

2

教科書の特質を生かした授業構成

『中学生の公民』第4部1章「世界平和の実現をめざして」では、カンボジアでおこった戦争と平和までの道りを「日本がどのように平和に向けて関わってきたか」を重ねながら、国際社会全体の平和に向けた取り組み

や枠組みについて学習し、「日本の今後の国際協力の在り方」について考えることを最終の目標とした展開となっている。

この特質を生かすために、カンボジア内戦にまつわる現代史を、簡単にはあっても是非生徒たちには理解させたい。それなくして学習目標である「世界平和の実現のために何をすべきか」という根本主題に対して、生徒たちの結論があまりにぼやけてしまう（理念的になってしまう）懸念があるからである。

また、PKO法による自衛隊の海外派遣に対して、当時の国内世論を二分したことも既習事項である憲法九条議論とも交えて理解させたい。さらにその因縁として、冷戦構造による各国の国家戦略（思惑）があったことも知らなければ、国際社会の平和と発展に日本はどのように貢献できるのか、国際社会の中で日本の在り方について、真に「自分なりの考えをもつことができるようになる」ことはできないと考える。

以上を踏まえたとうえで、第4部1章「世界平和の実現をめざして」の授業構成を試みることにする。

3

学習指導の流れ

第1時 国家と国際社会

国家の領域については地理的分野で既習のため、復習ということになる。ここでは、そ

のときにふれられなかった領土問題（竹島または魚釣島または北方領土）について、やはり既習の歴史的分野と絡めて学習を深めたい。

また、国家主権については、内政不干渉の原則に対して、中国や北朝鮮などにみられる人権侵害を教師が具体的な例で提示し、各グループで話し合いを行わせ、日本としてどう対応すべきか班ごとに発表させる。

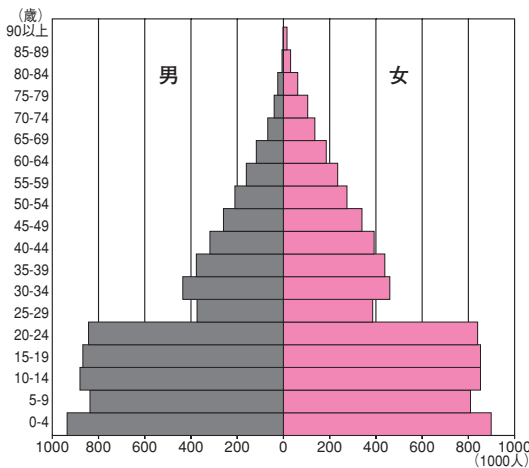
最後に、人権侵害の顕著な例として、この国にエリートはいらないと、医者や教師、大学生など100万人以上虐殺しているめちゃくちゃな国があったら内政干渉すべきかどうか発問する。そして、そんな国が実はそう遠くない昔に、日本からそう遠くない場所にあったということを告げ、本時を終了する。

第2時 世界でおこる戦争

導入 発問) この人口ピラミッド(資料A)をみて、気づいたことをノートに書きなさい。
予想される生徒の反応)

- ・25歳以上と以下で極端に人口の数が違う。
- ・とくに25歳から29歳までの人口が極端に少ない。
- ・先進国と途上国の特徴が混ざっている。

など。



資料A カンボジアの人口ピラミッド

発問) では、この人口ピラミッドはどこの国のものでしょうか？

- ・生徒からいくつかの国があがったところで正解を述べる。

発問) この国は東南アジアにあるカンボジアのものです。

では、なぜ「とくに25歳から29歳までの人口が極端に少なかった」り、「25歳以上と以下で極端に人口の数が違う」のでしょうか？

予想される生徒の反応)

- ・25年前から、カンボジアは先進国になった。など。

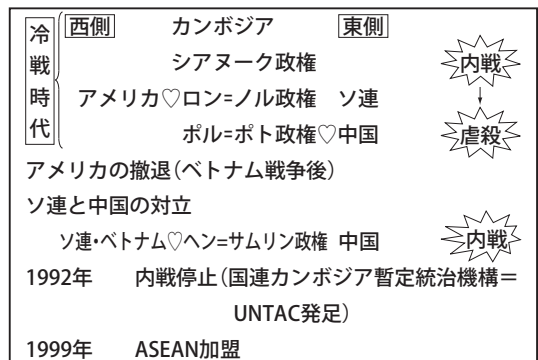
発問) 実は、このカンボジアはずっと内戦が続いており、25年から29年前にかけて(※グラフ作成時が2005年のため、正確には27年前から31年前)国内で虐殺が起きました。では、虐殺された人の数はどのくらいだったでしょうか。

- A) 約2万人以上
- B) 約20万人以上
- C) 約100万人以上

展開 カンボジアの場所の確認と現代の歴史について、教科書154ページの地図と年表を活用して学習していく。

この際、板書あるいはワークシートによって東西冷戦の影響をわかりやすくするように工夫する。

例



カンボジア現代史のまとめとして、ポル=ポト政権時代の裁判に最近ようやく着手し始めたこと、および、現在も内戦時代の影響で地雷が数多く埋められたままの状態であることにもふれる。また、ポル=ポト政権下での虐殺に際し、日本政府は何もしていないことも前時から引き継いでの課題として取り上げたい。

まとめ 発問) さて、現在も世界各地ではさまざまな理由から戦争を行っている国や地域がありますが、どのくらいあるでしょうか？予想される生徒の反応)

教科書155ページの上図⑤「世界でおこっているおもな戦争」を参考にまとめさせる。

この際、「戦争の理由にはどのようなものがあるのか？」についても、教科書155ページの本文を参考にまとめさせる。

第3時 国連のしくみと活動

導入 国連については、歴史的分野の学習でもふれているため、教科書157ページ上図②「国連のおもな組織」を参考に、ワークシート等でその成立としくみについての学習から、まずは確認から入りたい。

展開 前回の授業で学習した、カンボジアの和平実現に向けての国連が果たした役割について学習する。

- ・PKOについて、安全保障理事会の暫定的な下部組織であること(しくみ)、およびその目的(教科書156ページ本文)についての学習。
- ・教科書156ページ上段「社会のワンシーンから」による明石康氏の話を読み、具体的な活動を知る学習。
- ・日本における自衛隊の海外派兵に関する議論についての学習。ここでは、戦時中の日

本軍のアジアでの行いや、戦後の日米安全保障条約のスキームにも是非ふれておきたい。

まとめ 最後に、資料B「命を失った日本人」を読み、教科書156ページの①「投票するカンボジア国民と選挙運営を手伝うUNTAC職員」の写真を見て本時の感想を書いて終了とする。

資料B 「命を失った日本人」

"I am dying" (私は死んでいきます) という荘重な言葉を最期に、中田厚仁さんが、25年の短い生涯を終えたのは、今から12年前の平成5年4月8日、場所はカンボジア、コンポトム州であった。中田厚仁さんはUNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)のボランティアメンバーとして、総選挙実施の支援活動をしていた際、何者かに、至近距離から2発撃たれ、一発の銃弾は左側の頭の後ろから左目に貫通したのである。

カンボジアへのPKOに参加した日本人は数多い。自衛隊からは、総勢約1800人、また文民警察として75人の警察官が派遣された。そのうちのひとり高田警視も命を落とされている。

自衛隊の伊丹のある部隊では、PKOへの志願が定員の30倍にも達したという。

「日本の代表としてしっかり活躍したい。同じアジアの国の発展に協力できることがうれしい」(陸二曹28歳)

「当初は両親にも反対されましたが、国際貢献のためだからと必死に説得した。」(陸三曹30歳)

派遣の1か月前、長男が生まれたばかりの妻は、夫(陸三曹)の派遣が決まった時、「なんであなたがいかなければならないの」と泣

きながら訴えたという。

「私が泣いたとき、主人はじっと黙っていた。恐らく辛かったのでしょう。生まれたばかりの子どもをそばにいてもらいたい。今でも行ってほしくない。」

危険な地雷処理をしても、その手当は1時間で缶ジュース1本分、家族への電話代、1分千円前後の通話料も、自己負担だという。そういう悪条件にもくじけず、カンボジアに赴いた青年たちの気持ちは、中田厚仁さんと変わるところがないであろう。

「なんであなたがいかなければならないの」という妻の訴えに答えるのは、中田厚仁さんの次の言葉だ。

「だけれども僕はやる。この世の中に誰かがやらなければならない事がある時、僕は、その誰かになりたい。」

奇しくも中田さんの49日の法要と同じ日、5月23日にカンボジアの総選挙が実施された。中田さんが担当した地域の投票率は99.99%、カンボジア全土の90%を遥かに超えていた。投票箱を開けてみると、投票用紙の間から、手紙がいくつも出てきた。その一つはこう語っている。

「今まで民主主義とか人権とかいう言葉にふれることなく、一生戦争のなかで、暮らさねばならないのか、と思っていたけれども、こうやって初めて自分たちの意思が表せる選挙ができ、こんな嬉しいことはない。ありがとう。」

出典 伊勢雅臣「国際派日本人養成講座」(インターネット 改)

感想文については、憲法前文にある「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏

から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」「自国のことのみ専念して他国を無視してはならない」との観点に照らして、「平和」について評価したい。

第4時 地域機構の役割と発展

ASEAN（東南アジア諸国連合）について、具体的にどんな協力や活動をしているのか、またその成果について学習することを通して、その他の地域機構の役割と発展についても学ばせたい。しかし、教科書にはそこまでの記述はない。

そこで、教科書158ページの本文欄外に「検索 日本アセアンセンター」とあるので、ここではパソコンを使った授業を考案してみたい。

具体的には、生徒たちが日本アセアンセンターのホームページ（資料C-略）を参照しながら1時間でワークシートを完成させていくという手法を用いたい。

ワークシート例)

地域機構の役割と発展

① 「アセアンに関する基礎知識 1 アセアン概要 (1)」ページを見て、以下の問いに答えなさい。

- 1) アセアンの加盟国をすべて挙げなさい。
- 2) カンボジアが加入したのはいつですか。
- 3) アセアン設立の目的は何ですか。

② 「アセアンに関する基礎知識 1 アセアン概要 (3)」ページを見て、以下の問いに答えなさい。

アセアン加盟国は、経済協力のために具体的にどのようなことをしているかまとめなさい。

最後に、教科書159ページ③「1人あたりの国民総所得（GNI）と地域機構」をみて、地域ごとに協力し合っていること、および地域によって経済格差がある世界の現状にもふれて、終了とする。

第5時 国際平和に向けて

この時間のねらいは、戦争にまつわる世界の現状を、より身近に、心の奥深いところで感じ取らせるところに置きたい。そのために教科書160ページ①「銃を持つ少年たち」や②「地雷により片足を失った少年」は、日本の生徒たちの心に迫るといって非常に有効である。

発問例としては、

「この少年たちは、喜んで銃を持っていると思いますか。それともしかたがなくもっていると思いますか。また、なぜそのように思いますか。」

「あなたが、この写真のように銃を持つと考えた場合、人に向けて撃つことはできますか、それともできませんか。また、なぜそのように思いますか。」

「あなたが、戦争で片足を失った場合、まず何を考え、どうすると思いますか。」など。

これを班で話し合わせ、発表させるというのもよいし、各自でワークシートに書かせたものを、教師が集めて発表するというのも一つの手であろう。

とにかく、この場合、道徳授業と同じくシェアリングをして、生徒たちに自分以外の考えにもふれさせ、戦争に対する意識を高めさせたい。とくに、政治判断の裏側にある戦争の「悲惨さ」というものを、しっかりと生徒たちに理解させたい。

また、知識・理解の学習として「難民」「核

兵器の現状」などを板書等で学習した後に、「どのようにすれば、このような悲惨な現状をなくすことができるだろうか。」等の問いかけを行い、生徒たちには解決策についても是非考えさせたい。そして、異文化理解の重要性などにも気づかせて終了とする。

第6、7時 国際社会における日本の役割&国際社会のよりよい発展

ここでは、2時間分をひとまとめにして、この章のまとめとして、日本の役割について考える授業を考えてみた。

まず、第6時では、考える手立てとなる知識として、PKOとODA、NGOなどの基礎知識（PKOについては第3時で既習）についてを、教科書本文や社会のワンシーン等で学習する。

そして、第7時では、生徒たちには「あなたはどのように国際貢献したいか、またはしたくないか、またその理由はなぜか。」と「日本はどのような国際貢献をこれから果たしていくべきか、または果たすべきではないか、またその理由はなぜか。」の2つの発問について、じっくりと考えさせたい。

最後に、日米安全保障条約について、拉致問題やイラク復興支援にまつわる給油問題と絡めて解説をし、また、日本が唯一の被爆国であることを再度確認させることによって、核廃絶に向けては世界の中でもリーダーになるべき立場にあるということも告げて、終了としたい。

* * *